日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」
高校生ワークショップ新聞

高校生が活性化を提案

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」ワークショップ

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」を後世に伝えるための高校生ワークショップ（日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会＝桑田純一郎会長）が2021（令和3）年10～12月に行われました。地元7高校から28人が参加。7グループに分かれて生野銀山などのフィールドワークでの聞き取り調査などを経て、それぞれ活性化につなげる独自の提案をしました。

ワークショップは2019（令和元）年から年1回開かれ、これが3回目。これまで現場での取材はしていませんでしたが、「現地を訪れたことがない」という生徒が多かったことから、初めてフィールドワークを企画しました。

現地取材は11月3日に実施。生野銀山には県立香寺、県立神崎の1班、県立生野と和田山の合同班の計3グループ、明延鉱山には県立神崎の2班と私立市川の計3グループが参加しました。県立福崎の1グループは「自分たちが住む姫路市内の馬車道について調べたい」と同月8日、馬車の休憩所があったとされる場所に立つ大沢公民館に向かいました。

高校生らは、初めて目にする「GINZAN BOYZ」の“作業ぶり”に興味津々。
（中央はボランティアガイド＝生野銀山で）

生野銀山　明延鉱山　大沢公民館を
現地取材　魅力や課題探る

□■生野銀山■□

3グループの高校生9人は、シルバー生野のボランティアガイドから生野銀山の歴史などについて説明を受けたあと坑道に向かいました。香寺の4人が関心を持っていた「GINZAN BOYZ（銀山ボーイズ）」に〝出会う〟と歓声が。ガイドの解説を聞きながら、作業に取り組むボーイズたちの姿に興味津々でした。

坑内の暗さや、大きく、深く、掘られた竪穴を目の当たりにしたとき、「危険と隣り合わせの作業だったんだ」と当時の仕事の大変さに思いを寄せる生徒も。坑道内に、大量の水が流れていることにも驚いていました。

坑道見学後、3グループはそれぞれまち歩きをして、史跡を見学したり町民らにインタビューをしたり。銀山で働いていた人々の社宅を目にした生徒の一人は、建物の立派さに感心した様子で「こんな良い所なら、観光施設にできるはず」と町の活性化に向けたアイデアを思い浮かべていました。

□■明延鉱山■□

3グループの11人が、明延鉱山ガイドクラブのメンバーの案内で坑道へ。採掘作業に使っていた機械や、坑内の安定した温度を利用した酒造会社の鉱山貯蔵庫などを見学しました。

このあと、鉱山従業員が通勤に使った一円電車「くろがね号」に乗車。一周150mの短いコースでしたが、生徒たちは「天井が結構低いな」などと感想を口にしながら、ガタゴトと進む電車の乗り心地を実感していました。

続いて訪れた明延ミュージアム「第一浴場」では、採掘された鉱石を手にし、「思ったより重い」と驚きの声を上げる生徒も。

地元の区長らとの質疑応答に移り、生徒らは「明延がどうなれば良いと思っていますか？」などと質問。区長らは「今後、人口が増えるとは思っていません。むしろ減る一方でしょうが、ここに関わる人を増やすことができれば」と答えると、生徒らは真剣な表情で頷いていました。

関係者から一円電車やその歴史などについて説明を受ける高校生ら。資料を読んだり、メモを取ったり真剣そのもの。
（「一円電車ひろば」で）

□■大沢公民館■□

福崎の2人は、地元自治会から活性化につなげる現状の取り組みについて説明を受けました。

現在、公民館の展示物などを見直し中で、「銀の馬車道や姫路城など史跡、観光名所などとの関わりをクローズアップしています。世代を越えた交流をしたい」とのことで、生徒らは熱心に聞き入っていました。

2人は展示物を見て回り、地元・船津町と銀の馬車道への思いなどについて質問。「銀の馬車道があったからこそ、地元で製造した瓦を姫路城に運ぶことができた」などと教えられると、納得した様子でした。

懇談の場では、自治会長をはじめ地元住民が10人ほども出席。生徒らは「若い世代に、地元活性化の思いを伝え、担ってほしい」という皆さんの熱意をひしひしと感じていました。

銀の馬車道沿いに立つ明治創業の「神崎酒造」も見学。純米酒「銀の馬車道」を造っていることを知りました。

大沢公民館・銀の馬車道ギャラリー委員会の清水清委員長（左）から展示内容を解説してもらう高校生。地元の熱の入れように感銘を受けたよう。

ユニークなアイデア続々

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」を後世に伝えるための高校生ワークショップ。初の現地取材を行い、理解を深めた28人、7グループの高校生はそれぞれ新聞などの形で調査結果や活性化案をまとめました。「1泊2日の移住体験を」「インスタ映えスポットを」「特産品を使ったカフェがほしい」――。ユニークで、魅力的な提案にあふれたレポートを紹介します。

「キャラクターで繋げる IKU LOVE♡生活」 県立香寺高校

5ページになる力作。1ページ目は「取材の軌跡」と題して、「生野銀山や生野町の町並みについて知り、もっと沢山の方に知ってもらうために何ができるかを考えながら取材を行いました」と現地調査の狙いや目的を打ち出します。

その上で、キャラクターに注目。テレビなどでもしばしば取り上げられている「銀山ボーイズ」と、地域に生息しているオオサンショウウオのグッズも取り上げました。

2ページ目で、それぞれについて掘り下げています。銀山ボーイズについては、町民の皆さんの声を掲載。「鉱夫さんは死と隣り合わせだったので、きらびやかな衣装を見ると、どうしても応援できない」と現地に行かないと聞くことがない意見があることなどを紹介しています。

オオサンショウウオのグッズについては、制作者にインタビューを敢行するなど意欲的。

3ページ目には、生徒らが現地を訪れた素直な感想を並べ、それに基づいて「映えスポット」の創設や「1泊2日田舎移住体験in生野プロジェクト」と銘打って、古い町並みを生かしたブラリ歩きのほか、ワカサギ釣り体験、生野紅茶の試飲体験など地元の名産・特産品を活かしたツアーを提案します。

4ページ目はインスタ映えするイベントなどのアイデアと、取材した感想。5ページ目は生野をPRするために作成したYouTubeなどSNSのアドレスをお知らせしています。

香寺高校（記事抜粋）

「明延の魅力」 私立市川高校

各面に写真をふんだんに掲載。ビジュアルでカラフルな見開き4ページにまとめています。

1ページ目は明延の名物、スポット紹介で始まります。一つは明延鉱山、二つ目は鉱山内で熟成される日本酒、三つ目は「一円電車」を挙げ、まずは鉱山の歴史を紹介しています。

2～3ページにかけては、日本酒をクローズアップ。貯蔵方法に強い印象を持ったのに加え、「高校生の私たちが興味を持つということは、大人の人たちはもっと興味を持ってくれるのでは」と取材理由を。造られている日本酒の特徴などもつづっており、続けて一円電車を取り上げました。

取材した感想として▽一円電車の知名度が低い▽楽しめる施設がない▽お土産にできる特産品がない――と問題提起。一円電車の駅舎を作り、電車をかたどった筆箱などを提案しています。長期滞在を目的に、空き家を活用した民宿なども。

最終ページでは、今回の高校生ワークショップの全体テーマ「SDGs」を通した明延の現状を考察しています。

それによると、特産品（日本酒）を造るには人を雇わねばならず、雇用が生まれ、「働きがいも経済成長も」を達成しており、原材料は兵庫県産で、持続可能な消費と生産が成り立ち「つくる責任・つかう責任」もクリア。観光業の活性化で活気ある町になり、「住み続けられるまちづくり」を実現できるとしています。

市川高校（記事抜粋）

「銀の馬車道 ～大沢の歴史～」 県立福崎高校

大沢公民館（姫路市船津町）にテーマを絞り、公民館を銀の馬車道に関連した観光の拠点施設にできないかを探っています。

まずは大沢公民館の紹介です。立地場所は当時、馬車を引く馬を休憩させる場所で「立場」と呼ばれたそうです。付近には食堂などもあり、経済も発展。特に、瓦は材料となる良質な粘土が取れたことから、とても丈夫なものを作ることができました。

現在は過疎化が進んでいますが、危機感を持った地域の人たちは「50年後の世代にも伝えていきたい」と公民館の展示を見直すなど積極的に活動していることを強調、「大沢の馬車道」や馬車道を設計した「レオン・シスレー」についても言及しています。

高校生らは、町の人たちの熱心な取り組みに敬意を表しながら、次のような活性化案を示しました。

大沢公民館の展示場については、観るだけでなく、クイズラリーを実施。クイズとガチャガチャをいくつか設置し、クイズの正解者がガチャガチャを回すことができるというものです。回したガチャガチャの中には次のクイズや、ヒントなどを入れておき、全問をクリアした人には、地域や公民館限定の景品をプレゼントすれば、より大沢のことを知り、親しんでもらえるのでは、としています。

近くに酒造があることから、蔵見学や試飲なども提案しています。

福崎高校（記事抜粋）

「調査報告書」 県立神崎高校 生徒会①

生野銀山についての調査報告。項目ごとに写真や図を入れ、読み手の理解を深めるのを手伝っています。

生野銀山の歴史的背景に始まり、銀山の開発と歩を合わせるように発展した周辺の町並み、銀山で働いた人らなどを、実際に町を歩いたり、坑道に入ったりしてレポート。

「僕たちが考えた生野町の地域活性化プログラム」と題して▽生野銀山と関連した飲食店を作る▽インスタ映えするようなスポットを作る▽体験プログラムを作る――の3案を挙げました。

この3案を兼ね備えたものとして、生野の名産品を扱ったカフェの建設を主張。生野の特産品として、生野ハヤシライスや生野紅茶、味噌などがあることを知り、これらを取り入れながら、カフェ構想を練っています。

内装は落ち着いた雰囲気で、入口付近に生野銀山の地図を展示し、少しでも身近に感じてもらえるようにします。1階奥には、味噌づくり体験ができる場所を置き、2階に宿泊施設を設け、くつろいでもらえるようにします。

店外には「インスタ映えするスポット」として、鉱夫の作業着を身に着けて撮影できる場所を作ります。衣装の貸し出しや着替えなどはカフェ2階で準備。泊りがけで生野を満喫してもらえるように、としています。

報告書には、提案したカフェの見取り図も掲載。椅子やテーブルの位置など細かなところまでしっかり描き込まれており、生徒らの熱意が伝わってきます。

神崎 生徒会①（記事抜粋）

「明延　何それ　おいしいの？新聞」
県立神崎高校　生徒会②

明延鉱山の歴史をひも解いたあと、一円電車の試乗や町歩きなど実際の体験を通して知ったこと、感じたことなどをレポート。「一円電車は最大10～12人ほど乗れそうで、座ると天井に頭がつきそうだった」とか。

町歩きでは、豊かな自然に囲まれた鉱山が「とても大切に守られ続けている」ことに気づきます。「明延ミュージアム」では鉱石を手に取り「キラキラ光って、とても重くてびっくりした」と現地を訪れたからこそ得られる感想を記しています。

取材を通して、活性化のアイデアも提示。「豊かな自然を活かし、川遊びや森の探索ができる場所を設ける」「閉まっている商店の復活で、ここでしか食べられない山菜などの料理やお土産を販売する」「お寺を活用し、参拝を通して観光客を誘致する」「お祭りなど、にぎやかなイベントを開く」などとしています。

そして、強調したのが「温泉計画」です。明延には、かつて鉱夫とその家族が利用した「第一浴場」と呼ばれる温泉があったことから、旅館の設計を提案。浴場で地酒を楽しめたり、温泉だけでなく岩盤浴やサウナ、露天風呂など多種多様な施設を作ったりすればとして、手書きの建物の見取り図まで掲載しています。

最後に、生徒らは「自然が豊富で川がきれい」「昔の町並みが残っていて魅力的」などと現地を取材した感想を述べています。

明延何それおいしいの？新聞

田嶋　皇翔
青石　りろ
青田　颯香
山口さくら

初めに
私たちはいままで立ち入ったことのない明延鉱山へと足を踏み入れました。見学に行ってみて初めて見たものがたくさんあり、何を調べたらいいかわからなかったです。青石・青田の2人は現地取材に行きました。

明延鉱山とは？
明延鉱山は現在の兵庫県養父市大屋町にあり、奈良時代に探鉱され始めました。
明延鉱山はかつて銀鉱石を350kg、坑道の深さは海抜下約130mまで掘られていた大規模な鉱山でした。
この鉱山で主に採掘されていた石として銅、鉛、亜鉛、錫、タングステン、蛍石などが産出され、その中でも亜鉛の産出量は第2位でした。
明延鉱山は2020年の生産量は日産約3000トンで国内産出量の約1/3を占めていました。
ピーク時（1951年）の生産量は日産約3000トンで国内産出量の約1/3を占めていました。その中でも亜鉛鉱石の産出はなんと、かの有名な食品の大手会社が出資されていたほどです。
その後は、鉱山の閉山とともに当時の神戸電鉄も廃線となりました。現在では1周7000mほどの遊歩道となっています。
また、鉱山の閉山とともに当時の神戸電鉄も廃線となりました。現在では1周7000mほどの遊歩道となっています。
鉱山の閉山後は、三菱不住友といった大規模な財閥から企業団体へと発展しました。

ロープウェイ
鉱石量が多いための運搬が大変になりました。そこで大正時代から鉱山から神戸駅までをロープウェイで運んでいました。昭和4年（1929年）に明延鉱業が設置し、約6kmの線路が敷設され、明延駅で鉱石を運搬しました。後に村岡に山麓を買われ鉱石を運搬できなくなってしまった。

1円電車！！！
1945年から運行していた電車は明神電車。鉱業所の明延鉱山にあった鉱石運搬。明延と神子畑を結び、昭和4年に完成して、当時の4600人を超える鉱山関係者を乗せていました。当時は無料でしたが1949年から50銭（9.5円）1952年から関係者は1円、部外者は10円で運行していました。その後は関係者も1円になりました。そこから1円電車と呼ばれるようになりました。その中でも明延鉱山の閉山とともに当時の神戸電鉄も廃線となりました。現在では1周7000mほどの遊歩道となっています。
1967年に明延鉱山の閉山とともに当時の神戸電鉄も廃線となりました。現在では1周7000mほどの遊歩道となっています。

元気な街　明延
明延の町の人口は1957年頃であり、鉱山の労働は約4900名にも上がりました。そこでその労働者の家族のための当時ここの地域には約4300人分もの人が在住していました。更にここで、働く人々は長期に渡ってこの明延のシンボル的存在になっていました。

神崎　生徒会②（記事抜粋）

「明延鉱山」
県立神崎高校　ボランティア部

最初に、明延鉱山の概要を紹介。鉱山内の地下は過酷な労働環境だったこと、坑道内には日本酒の鉱山貯蔵庫があることなどを書き連ね、「四季を通じて12度前後の温度で保たれているため、お酒にストレスがかからず、長い期間にわたって貯蔵することができるそうです」としています。坑道には照明がありますが、「電気を消すと何も見えなくなると聞いて怖いなと思いました」と素直な感想をつづっています。

次に取り上げたのが、一円電車。電車を動かせる人はごくわずかで、運転手になるには難しい試験があるうえ、運転手に若い人がいないということを知り、「僕たちの世代の人たちに受け継いでもらうため、もっとたくさんの人に知ってもらいたい」と。そのために、自分たちのような高校生でもできることとして▽季節ごとのライトアップなど四季折々に車両の〝衣替え〟をする▽インスタグラムなどのSNSを活用するなど、インターネット経由で宣伝してみる▽手作りできるような一円電車のキーホルダーを開発する――ことを提案しています。

明延鉱山

明延鉱山について
エレベーター、分速150mで人乗り、一回ごとまで乗せられます。
普通のエレベーターは、分速30～50mで機械や荷物を乗せたときは分速30～50mを超えるそうです。
鉱山内には「明興坑」という鉱山貯蔵庫があります。そこには明延のお酒「鉱醸」が発酵されていました。
貯蔵庫内を通してTVで放送で保たれているそうです。そのため、お酒にストレスがかからず、長い時間にわたって貯蔵することができるそうです。
鉱山では海、南知、タングステンが採掘されるそうです。
生産量は150トンで、そのうち大半は鉛鉱山だったそうです。
鉱山のなかは電気があるそうです。電気を消すと何も見えなくなるそうです。それを聞いて怖いなと思いました。

一円電車について
一円電車は、1932年に鉱石の輸送を目的に作られました。当時は、町の人々を乗せるそこでいました。
電車を動かせる人は、すごく限られた人数しかいないようです。しかも、運転手になるためには、すごく難しい試験があるようです。そして、運転をしているみの中に若い年代の人は、いないそうなので僕たちのような人に、受け継いでもらうために、もっとたくさんの人知ってもらいたいです。
そのために、自分たちのような高校生にできることは、
① 季節ごとに衣替えをしてみる。
（例）季節ごとのライトアップをしてみる。
② インターネット経由で宣伝してみる。
（例）インスタグラムなどのSNSを活用する。
③ 1円電車のキーホルダーを作る。
（例）手作りできるようにする。

編集後記（感想）
今まで明延について興味もなかったので初めて調べてみて知らないことがたくさんありました。鉱山で働いて狭い場所で作業していたと知り、今の生活がどれだけ恵まれているか改めて知らされました。次は活用する。
③ 1円電車のキーホルダーを作る。
（例）手作りできるようにする。

神崎ボランティア部
（記事抜粋）

「生野銀山について」
県立和田山高校　県立生野高校

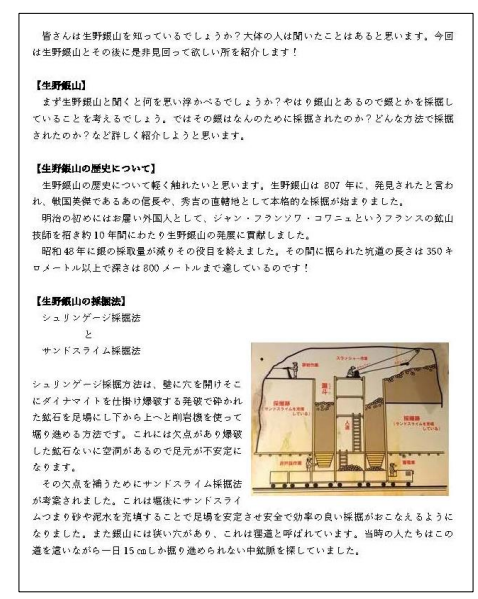
生野銀山の歴史や鉱石の採掘方法をレポート。鉱山は、織田信長や豊臣秀吉にも注目されたことや、昭和48年の閉山までに掘られた坑道の長さは350km以上、深さが800mに達していることに、素直な驚きを示しています。

報告書の特徴の一つは、採掘方法へのこだわりです。シュリンゲージ採掘法とサンドスライム採掘法があることを紹介。シュリンゲージ採掘法は、壁に開けた穴に仕掛けたダイナマイトを爆発し、砕いた鉱石を足場にして削岩機を下から上に掘り進めるものです。

これには、爆破した鉱石の間に空洞が生じて足場が不安定になる欠点があります。それを補うために考案されたのが、サンドスライム採掘法。掘削後に砂や泥水を充填することで足場を安定させ、安全で効率的な採掘ができるようになった、と説明しています。

「生野銀山の未来」としては「たくさんの人に来てもらうためにも、お祭りを開催したらいいなと思いました」。ただ、新型コロナウイルスの流行が終息していない間は「その代わりとして心が落ち着くイルミネーションができれば」と提案、そのイベントを広く知ってもらえるよう広告チラシなどを作成して配ればいいのでは、としています。

また、生野でしか食べられない特産品を開発したり、人気があるメニューをインスタグラムにアップしたりすることで、「遠方からも大勢の観光客に来てもらえるのではないかと思います」と訴えます。


皆さんは生野銀山を知っているでしょうか？大体の人は聞いたことはあると思います。今回は生野銀山とその後に是非見回って欲しい所を紹介します！

【生野銀山】
まず生野銀山と聞くと何を思い浮かべるでしょうか？やはり銀山とあるので銀とかを採掘していることを考えるでしょう。ではその銀はなんのために採掘されたのか？どんな方法で採掘されたのか？など詳しく紹介しようと思います。

【生野銀山の歴史について】
生野銀山の歴史について軽く触れたいと思います。生野銀山は 807 年に、発見されたと言われ、戦国英傑であるあの信長や、秀吉の直轄地として本格的な採掘が始まりました。
明治の初めにはお雇い外国人として、ジャン・フランソワ・コワニュというフランスの鉱山技師を招き約 10 年間にわたり生野銀山の発展に貢献しました。
昭和 48 年に銀の採取量が減りその役目を終えました。その間に掘られた坑道の長さは 350 キロメートル以上で深さは 800 メートルまで達しているのです！

【生野銀山の採掘法】
シュリンゲージ採掘法
と
サンドスライム採掘法

シュリンゲージ採掘方法は、壁に穴を開けそこにダイナマイトを仕掛け爆破する発破で砕かれた鉱石を足場に下から上へと削岩機を使って堀り進める方法です。これには欠点があり爆破した鉱石ないに空洞があるので足元が不安定になります。
その欠点を補うためにサンドスライム採掘法が考案されました。これは堀後にサンドスライムつまり砂や泥水を充填することで足場を安定させ安全で効率の良い採掘がおこなえるようになりました。また銀山には狭い穴があり、これは覆道と呼ばれています。当時の人たちはこの道を通いながら一日 15 cmしか掘り進められない中鉱脈を探していました。

和田山高校・生野高校
合同グループ（記事抜粋）

私たちは本気で「まち」を面白くしたい人を全力でサポートする法人です！
NPO法人
姫路コンベンションサポート
各グループの記事詳細は、日本遺産のHPに掲載しております。ぜひご覧下さい。
HP：http://wadachi73.jp/

SDGsをカードゲームで疑似体験

現地取材に先立ち、10月3日に市川町文化センターで開かれた初回ワークショップでは「SDGｓ」について学びました。SDGsは、持続可能な社会の実現に向け、国連が▽貧困撲滅▽質の高い教育▽住み続けられるまちづくり――など17の目標と169の達成基準などを設定。全世界で取り組まれており、今回のワークショップでもSDGsの視点を取り入れました。まちづくりに取り組んでいる初田直哉さんを講師に、生徒は2班に分かれてSDGsカードゲームを体験しました。生徒らには行政、商店主、一般市民ら九つの役割が割り振られ、やるべき事柄などを書いたカードに従い、それぞれ交渉しながら目標達成にチャレンジ。環境保護ばかり推進すると経済成長がおろそかになるなど、ゲームを通じて社会のつながりの大切さ、難しさを学びました。

取材の成果をグループごとに発表

11月20日と12月19日、福崎町で開かれた3、4回目のワークショップでは、グループごとに現地を取材した感想やまちづくりの提案などを思うままに書き出し、学習を深めました。

最終回となった4回目には、元朝来市地域おこし協力隊の諏訪正和さんが講師となり、生徒らは現地を取材する前と後の感想を書きとめました。取材前は「まったく関心がなかった」「何も知らなかった」などと無関心でしたが、取材後は「いろんなことが分かり興味を持った」「全国に誇れる産業遺産という認識になった」など前向きに。この後、各グループは活性化の提案を、出席していた馬車道沿いの市町関係者の前で発表、市町関係者らは「皆さんのアイデアを活かしたい」などと答えていました。

高校生ワークショップに参加して ～参加生徒らの声～

◇…生　野…◇

出口真理子（2年）
「生野銀山に取材に行ったが、実際に見たり聞いたりしないと分からないことがたくさんあることを実感した。また家族で訪ねてみたい。ワークショップでは、他校の仲間と話せたことが良かった」

◇…市　川…◇

魚橋　秀騎（2年）
「ワークショップに参加し、地域おこしの難しさを知った。現地取材では、明延で唯一の酒店が印象に残っている。報告書には、地元の人にインタビューした内容をもっと書けば良かったと思う」

牛尾　颯吾（2年）
「一番大事なのは、協力することだと学んだ。日本遺産・銀の馬車道についてはこれまで何も知らず、行ったこともなかったので、その歴史を学びたいと思っていた」

陰山　暢紀（2年）
「銀の馬車道のことは全然知らなかったが、文化的なことに興味があったのでワークショップに参加した。明延鉱山を取材したが、生野銀山や馬車型模型も見たかった」

小林　凌久（2年）
「日本遺産・銀の馬車道には行ったこともなかったが、興味があり、深く知りたいと思ってワークショップに参加した。明延鉱山のことが勉強できて良かった」

二宮　采人（2年）
「ワークショップには、友達に誘われて参加した。日本遺産・銀の馬車道は、聞いたことも行ったこともなかった。でもいろいろ学べて、その歴史を知ることができた」

藤川　拓海（2年）
「みんなと協力して記事を作成できたと思うが、もう少し他校と話す機会があれば良かった。生野銀山には長い歴史があることを知り、地元の好きなところが増えた。友達とまた行ってみたい」

◇…神　崎…◇

青石　りろ（2年）
「町の活性化というテーマは、これまで考えたことがなく、とても難しかったけど一生懸命考えることができ、楽しんで取り組めたと思う。現地取材でもっとも印象に残ったのは一円電車」

青田　楓香（2年）
「明延の文化や課題を知ることができた。当時使われていた物などをまとめた博物館があったことが印象に残っている。山道が険しく、新聞づくりは大変だったけど、よくできたと思う」

大崎　勇磨（1年）
「日本遺産という立派なものが、兵庫県内にあることを知ることができて良かった。明延鉱山に取材に行って坑道を見学できたことが、印象に残っている」

大仲　健登（2年）
「初対面の人でも積極的に話したら、会話が弾んでとても良かった。生野銀山の歴史をじかに見られて良い経験になった。みんなで意見をまとめる作業も楽しかった」

尾花　流星（1年）
「銀の馬車道のことをもっと知りたいと思い、ワークショップに参加した。SDGsカードゲームでは、他の人に自分の考えを伝えることの大切さを学んだ」

熊見　小桜（1年）
「自主的に活動できたと思うし、課題に楽しく取り組めた。明延の歴史に触れることができて良かった。現地ツアーでは、明延鉱山の見学が印象に残っている」

田嶋　皇翔（2年）
「ワークショップに参加して、銀の馬車道について詳しく学べた。自主的に取り組めたと思う。現地ツアーには行けなかったので、機会があれば1人で行ってみたい」

立石　隼斗（2年）
「関心のないことでも調べていくと、興味深いものになることが分かった。グループや他校と交流することで、コミュニケーション能力を大きく伸ばすことができた」

林　大義（1年）
「明延鉱山について、多くのことを知れて良かった。活動には積極的に取り組めたと思うし、楽しかった。現地取材で一番印象に残ったのは、やっぱり鉱山そのもの」

本勝　怜央（1年）
「ワークショップに参加して、明延鉱山の歴史に触れ、学ぶことができた。ただ、現地に行けなかったのが残念。自分から『やりたい』と思って取り組めたら良かったと思っている」

前島　瑞樹（2年）
「生野銀山やその周辺について、知識が身に付いたのが成果。現地ツアーには参加できなかったが、活動には自主的に取り組めたと思う。友達とまた行ってみたい」

◇…香　寺…◇

北　志織（2年）
「観光だけでは知ることができない、生野の魅力や改善点などを知ることができて勉強になった。人が優しく、風情ある建物や景色など生野が大好きになった。他校の生徒とも友達になれた」

豊田　智之（2年）
「SDGsの考え方と結び付けて町のPR方法を考えたことが印象に残った。主体的に取り組めたと思う。生野は銀山以外にも魅力的なものがあることを知った」

中村　真和（3年）
「自分たちの考えたテーマとSDGsを結び付けるのは難しかったが、多くのアドバイスを得て試行錯誤しながらまとめられた。こうした場でいろいろ考えたことを、次に引き継いでいきたい」

藤原　白羽（2年）
「地域の未来を考えることの難しさ、その中にある楽しさに感動した。生野に多くの遺物が残っていることが印象深かった。各校の生徒と考え方が違うのも興味深かった」

◇…福　崎…◇

有方　瑞紀（2年）
「地元について知らないことが多いことに気づかされた。地域の人が、地域の歴史を若い世代に伝えたいという思いの強さが印象に残った。学んだことを友達に伝えたい」

柴原　椛愛（2年）
「まずは下調べをしっかりし、詳しい話を聞いてまとめることの必要性と難しさを学んだ。お年寄りが地域活性化に頑張っている印象を持った」

坪井　亜衣（2年）
「地域のことを調べるなかで、改善できる点が見つかったのが良かった。自分の意見を主張するのを迷うときもあったが、積極的に口にすることが大切だと分かった」

◇…和田山…◇

浅田　巴流（3年）
「先生に勧められてワークショップに参加したが、自分の住んでいる地域について、いろいろ学べる機会だった。仲間としっかり話し合う大切さを実感した」

石本にちか（3年）
「楽しんで取り組めたし、グループに貢献できたと思うが、もっとアイデアを出せれば良かった。生野銀山は雰囲気が良く、今度は家族で行ってみたいと思っている」

日下部　蓮（3年）
「生野銀山には抽象的なイメージしかなかったが、自分の目で見て肌で感じ、生野の歴史や文化に触れる良い機会になった。現地取材以外では、SDGsカードゲームが印象的だった」

播但貫く、銀の馬車道　鉱石の道
～資源大国日本の記憶をたどる73㎞の轍～
日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会（事務局）
〒670-0947　兵庫県姫路市北条1-98
兵庫県中播磨県民センター　県民交流室　産業観光課（銀の馬車道担当）
TEL 079-281-9034